

国際理解教育/開発教育 学習指導 (活動) 案

【実践者】

授業者氏名	森長 大輔	学校名	北海道上川高等学校
教科 (科目)・領域	外国語 (英語)・コミュニケーション英語Ⅰ	対象学年 (人数)	2 年 A 組 (15 名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	令和 2 年 12 月～1 月 (8 時間)		

【実施概要】

1. 単元名(活動名) : Lesson 5 Baobabs in Madagascar					
2. 実践する教科・領域： 外国語(英語)・コミュニケーション英語Ⅰ ※教科学習での取り組みか、あるいは総合的な学習、特別活動、道徳での取り組みかを明示してください。	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： ・バオバブの木を取り巻く現状に目を向け、自然と人間の共存、自然保護について考える。 （マダガスカルについて知り、日本との共通点と相違点を理解する。） ・新出語句・重要表現を理解する。・基本的な不定詞の用法を理解する。 ・ペアワークやグループワークを通じて自然と人間の共存、自然保護について話し合い、意見をまとめる。					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	マダガスカルを抱える問題を理解している。主張する表現の使い方を理解している。to 不定詞について基本的知識を身に付けている。			
	②思考力、判断力、表現力等	読んだことに基づいて自分の考えを発表することができる。 読んだことに基づいて自分の考えをまとめた文章として書くことができる。			
	③学びに向かう力	SDGs と国内外の問題について関心を持ち、積極的に聞いたり読んだりしている。間違えることを恐れず自分の考えについて主張しようとしている。			
6. 単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 本単元では、「バオバブの木を守る方法は何か？」について、最終的に郷土の問題と照らし合わせて、ジブンゴト化し、自らの意見を社会に発信することを目的としている。その過程で、マダガスカルではどのような諸問題があるのかを、グループ活動等で意見を交換しながら、SDGs カードを活用して観点別に分類する。その上で、外部講師からの講演でより具体的な郷土が抱える課題に目を向けてもらい、背景知識を身に付ける。活動の終盤では、マダガスカルだけでなく、郷土を取り巻く環境における課題と対峙し、個々の意見を発信できる力を身につけてもらいたい。 【児童／生徒観】				

	コミュニケーション英語 I の生徒たちは、過半数が民間就職、専門学校、少数ではあるが短期大学・大学への進学を志望している習熟度別標準・応用クラスの応用に当たる 2 年生である。もともと言語に対する興味・関心は高いが、英語に対しては苦手意識を持っている傾向が強い。英語を得意としない生徒も英語を英語で学ぶことができるようなオールイングリッシュの授業の実現のため、まず、僅かな問題でも自力で解決・理解できたその手応えを持たせることにより、彼らの苦手意識を払拭し、自信を持たせられるよう、授業の雰囲気作りに気を付けている。また、生徒たちは全体的に真面目にコツコツと学習に取り組むが、理解ができていても自分から進んで発言することには躊躇する傾向がある。授業内で少しでも自発的な発言が増えるよう、彼らが答えやすい質問をできるだけ多く設定するよう心掛けている。 【教材観】 アフリカマダガスカル島西部ムルンダバ郊外には、巨木バオバブの並木がある。バオバブは、フランスの作家サン＝テグジュペリの有名な著作『星の王子さま』にも登場する木で、中には樹齢数千年に達するものもある。乾期に耐えられる優れた貯水性を持つ木だが、農地開発とそれに伴う住民の増加によって生存の危機に瀕している。バオバブの木を取り巻く現状に目を向け、自然と人間の共存、自然保護について考えさせる。 【指導観】 本校の生徒たちは、SDG s についての知識は乏しい。従って、本単元冒頭では、テキストを理解した上で SDG s の物差しで現状分析させる。ストックホルム・レジリエンスセンターからの出典を参考に、SDG s カードを、SDGs ウィングケーキモデルに分類してもらう。①環境、②社会、③経済に分けられたら、上記①から③の分類で、SDG s に対する思いや理解度、取り組み具合を、アンケートを利用して見える化する。得られた結果から、問題解決(目標を達成)するために自らの行動を変えなければいけないことを自覚させる。本時では、本単元の『バオバブの木を守る方法は何か』に対する質問への橋渡しの授業である。SDG s の目標を実際にマダガスカルの個々の問題点に照らし合わせて、どのように問題解決を図るのかをジグソー活動を通じて体感してもらう。その後、ワークショップ形式で、個・クラスでの話し合う活動を取り入れ、言語材料の不定詞を用いてわたし(状況に応じて、私たち)の SDG s 宣言という形式で締め括る。
--	--

7. 単元計画 (全 8 時間)

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。

時	ねらい	学習活動	資料など ※: JICA リソース 活用はここに記載
1	導入 Lesson 5 Part 1 「星の王子さまは、バオバブをどんな木だと思っていますか？」	SDGs とは① 目標 15 フォトランゲージ① 動画視聴① アンケート① Oral Introduction 新出語確認(Quizlet) 内容理解 (Q&A, Summary) 重要文法事項確認 本文音読	教科書 写真 動画 授業プリント アンケート① スライド スマートフォン SDGs カード
2	Lesson 5 Part 2 「バオバブが火に強いのはなぜです	Oral Introduction 新出語確認(Quizlet)	教科書 授業プリント

	か？」	内容理解 (Q&A, Summary) 重要文法事項確認 本文音読 評価問題対策	スライド スマートフォン
3	Lesson 5 Part 3 「バオバブが今、年々姿を消しているのはなぜですか？」	Oral Introduction 新出語確認(Quizlet) 内容理解 (Q&A, Summary) 重要文法事項確認 本文音読 総合問題対策	教科書 授業プリント スライド スマートフォン
4 本時	SDGs (1)	前時の復習を行う SDGs とは② ・フォトランゲージ② What are the problems in Madagascar? (マダガスカルの写真を基に、マダガスカルが抱えている問題にはどんなものがあるか知り、SDGs とどのように関わっているかを考えさせる。) (ホットスポット、生物多様性、保全教育、児童労働、貧困、飢餓 etc.,) 目標 15 と他の目標との関わり ・動画視聴② ・エキスパート活動 ・ジグソー活動 ・クロストーク活動 ・プレゼンテーション ・まとめ 英文校閲：北海道旭川西高等学校 マイケル・バガイスキ 様	教科書 授業プリント 写真 スライド 動画 ワークシート グループ用ワークシート SDGs カード
5	SDGs (2)	大雪国立公園層雲峡ビジターセンター 片山 徹 様 (※新型コロナウイルスのため、資料提供)	スライド 授業プリント SDGs カード
6	SDGs (3)	JICA 国際協力出前講座(Zoom) 青年海外協力隊 2017 年度 4 次隊・パラグアイ・看護師 岡部 日香莉 様	スライド 授業プリント SDGs カード アンケート②
7	SDGs (4)	ミニフランス語会話を実施(昨年度資料参照) 上川町役場・企画総務課・企画グループ主任 チャールズ・ハルバソン 様 上川町教育委員会 外国語指導助手 マーク・サイデル 様	スライド 授業プリント SDGs カード
8	SDGs (5)	SDGs とは③ 『国立公園の森林(バオバブの木)を守る方法は何か』	スライド 授業プリント スマートフォン SDGs カード アンケート③

8. 本時の展開 (概略)

本時のねらい：マダガスカルが抱える 3 つの問題点(農家の生産環境や品質、栄養改善、森林伐採)を理解し、それらの問題から当国を守るためにどのような取り組みが、SDGs のどの観点で取り組まれているかを捉えることができる。

※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	○Greeting(1分) 挨拶・出席確認をし、生徒の様子や変化を観察する。 ○Review(4分) 「前時で学んだ内容を簡単に復習して、本時の学習内容に関連させましょう。THINK! “But is it true?” (p. 41)という質問を見てください。この質問に対して、「いいえ、現在では本当とは言えません」と答えるときの理由を p.43 から探してください。」 ①バオバブの減少に言及している。 「毎年、バオバブは減少しているから」 ②バオバブの減少について、その具体的な理由とともに言及している。 「人間がロープや薬をつくるために樹皮をはいたり、水をやりすぎて根が腐ったり、ウシが新芽を食べたりして、バオバブは年々減少しているから	・教科書 (p. 41, p43)	SDGs カード (黒板に掲示) 教科書 授業プリント
展開 (42分)	“マダガスカルが抱える問題は何ですか?”		
	SDGs とは②(3分) ○フォトランゲージ 「これらの写真は、何を表していると思いますか。」 ・発展途上国 ・砂漠化 ・子供が働いている ・貧しい ・食べ物に困っている ○動画視聴②(4分) 「誰も取り残されない」という強いメッセージ性のある動画を視聴する。	目標 15 他の目標との関わり マダガスカルの写真を基に、マダガスカルが抱えている問題にはどんなものがあるか知り、SDGs とどのように関わっているかを考えさせる。生徒に問いかけながら、発言を促す。 (ホットスポット、生物多様性、保全教育、児童労働、貧困、飢餓 etc.,)	写真(ホットスポット、生物多様性、保全教育、児童労働、貧困、飢餓 etc.,) 写真提供: 久野真一/ JICA 動画② https://m.youtube.com/watch?v=yEQJzdrYIcM

○情報収集(エキスパート活動)(9分) 「3人1グループを5つ作りましょう。グループ内で1から3の好きな番号を決めてください(ジグソーグループ)。私の合図で一斉に自分が選んだ番号が貼られている資料の場所へ移動し、そこに書かれている情報を収集し始めてください。この時にジグソーグループからそれぞれ1人ずつ集まったメンバーが、その場で同じ資料を読み合う別のチームを結成している状態になります。協力して、その資料に書かれた内容や意味を話し合ったりして理解しましょう。ここでの活動を個人で取り組ませることなく、メンバー全員で助け合いながら資料を読み解き、主体的に取り組ませるように意識しましょう。」 各グループに配られた資料を読み込み、ジグソー活動の準備をする。 <u>各グループに配られた資料</u> A チョコレートで SDGs に貢献 貧しい農家が多く、生活の不安を抱えている。 →仕事に集中し、良質なカカオを作ってもらうために、日本を代表するチョコレートメーカーである明治は、栽培技術の向上と発酵技術の指導、資材の補助などと同時に生活のサポートをしている。 B 食の大切さを共有し、広める 5 歳未満児の発育阻害(おもに慢性栄養不良による低身長)の比率が 49.2 パーセントと世界で 5 番目に高い。 →JICA が、地域住民と学校、行政の 3 者が協力する枠組みを作り、給食を通じた栄養改善を行っている。 C 誰もが参加できる研修で森林と人々の生活を守る。 人口増加に伴って無秩序な森林伐採が進み、土壌が劣化し、人々の生活や生産活動	グループ編成 ○エキスパート活動 3人×5グループ、 資料3種類 (A, B, C) ・資料を把握する時間を十分にとる。それぞれ理解したこと、また理解できなかった点を確認し合う。エキスパート活動は日本語で行うことを可とする。できる限り、メモは英語でとるように生徒へ徹底させる。 ・重要な項目に線を引かせるなど、要点を整理させる。 ・タイマーによる時間計測を行い、終了時に声かけをする。	ワークシート① 各グループ3枚
---	--	-------------------------------

	を脅かしている。 →アイ・シー・ネット株式会社は、“誰もが参加できる研修”を通じて住民に技術を伝え、森林と人々の生活を守るプロジェクトを行っている。 ○ジグソー活動(9分) 「最初のジグソー活動のグループで集合してください。そして、他のメンバーにエキスパートで精選した情報を説明しましょう。Task 1 ・A: 貧しい農家の人が出て、生活に困っている。その問題を解決するために、明治が良い品質のチョコレートをつくるために技術指導をして、その農家の生活をサポートしている。 ・B: 栄養不良のために、発育が遅れている。その結果、低身長である。JICA が学校給食を利用して、問題を解決しようとしている。 ・C: 人口が増えて、土地の開発が進み、森林伐採が進行している。アイ・シー・ネット株式会社が誰もが参加できる研修を企画して、森林と共存できるように地域住民に働きかけている。 ここでの情報交換の時間(グループ内プレゼンテーション)で、グループの全員が全てのトピック(3つの情報)についての知識を得ることができる。この活動は、それぞれ自分だけがその情報を知っているので、責任感を持ってなんとかして自分の言葉で正確に伝えようとする。 ○クロストーク活動(12分) 各班で出た解答を発表し合い、意見をまとめる。 「A から C の内容を比較して、何に気が付きましたか。」 「共通点は何でしたか。」 Task 2 (1) ・A: 貧しい人たちを助けようとしている。 ・B: 色々な団体が連携している。 ・C: 技術を提供している。 「A から C の貢献する SDGs の目標を比較して、何	グループ編成 ○ジグソー活動 3人×5グループ ○資料を用いて、発表させる。 ○まとめた内容を自分なりに咀嚼させて、聞き手を意識した内容にするよう促す。 各パートの情報交換を日本語で行う。できる限り、メモは英語でとるように指示をする。 ○クロストークに向けて、班のストーリーを完成させるため話し合うように指示する。 ○できる限り多くのグループに発表をさせると共に、他のグループの生徒は同じ意見があれば賛成など意思表示をさせる。	ワークシート① 各グループ3枚 ワークシート① 各グループ3枚 SDGs カード 各グループ1セット
--	---	---	--

	に気が付きましたか。」 「共通点は何でしたか。」 Task 2 (2) ・A: 企業が農家の人たちに支援をしていて、17 の目標を達成しようとしている。 ・B: JICA が学校給食を活用して、人々に保健と福祉の目標を解決しようとしている。 ・C: 会社が企画を立案して、15 の目標を改善しようとしている。 「マダガスカルの問題を改善するためには、私たちは何ができますか」 Task 2 (3) ・A: 企業が農家を支援することで、品質の良いカカオ豆を作れ、貧困から脱出することができる。 ・B: 学校で教育を受けることで、栄養不良を改善することができる。 ・C: 現地の人たちに技術を伝えることで、森林を守ることができる。 ○プレゼンテーション(5分)		
まとめ (3分)	○まとめ(3分) 授業全体の振り返り、課題の確認、あいさつ	○発表された意見を踏まえ、本時のまとめのストーリーを考え、記述させる。 ○できる限り多くの生徒に発表をさせる。	
9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） 【知識及び技能】 マダガスカルを抱える問題を理解している。主張する表現の使い方を理解している。to 不定詞について基本的知識を身に付けている。（ワークシート） 【思考力、判断力、表現力等】 読んだことに基づいて自分の考えを主張することができる。読んだことに基づいて自分の考えをまとめた文章として書くことができる。（ワークシート） 【学びに向かう力、人間性等】 SDGs と国内外の問題について関心を持ち、積極的に聞いたり読んだりしている。間違えることを恐れず自分の考えについて主張しようとしている。（観察）			
10. 学習方法および外部との連携 SDGs(1)：英文校閲：北海道旭川西高等学校 外国語指導助手 マイケル・バガイスキ 様 SDGs(2)：大雪国立公園層雲峡ビジターセンター 片山 徹 様 (※新型コロナウイルスのため、資料提供) SDGs の 17 目標、目標 15「陸の豊かさを守ろう」 SDGs(3)：JICA 国際協力出前講座(Zoom) 題目「パラグアイの医療・水事情について」 SDGs の 17 目標、目標 3「すべての人に健康と福祉を」、目標 6「安全な水とトイレを世界中に」 青年海外協力隊 2017 年度 4 次隊・パラグアイ・看護師 岡部 日香莉 様			

SDGs(4)：ミニフランス語会話を実施(昨年度資料参照) 上川町役場・企画総務課・企画グループ 主任 チャールズ・ハルバソン 様 上川町教育委員会 外国語指導助手 マーク・サイデル 様	
11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	1 学年総合的な探究の時間で、生徒 5 名と共に例年 10 月初旬に開催されるラーメン甲子園出場を目指して、新しいラーメンレシピの開発を行っている。本年度はコロナ禍で甲子園の開催は未定であるが、例年 2 月初旬に催される学校行事「探究活動報告会」に備えて、多文化共生（宗教、アイヌ民族、ヴィーガン）の視点から、SDGs 3 と 10 の目標を主軸に、国際理解教育・授業実践を広める取り組みを行っている。

【自己評価】

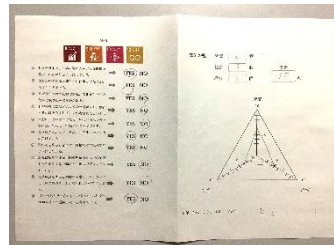
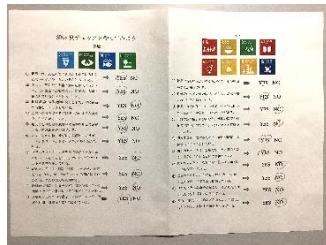
12. 苦労した点	苦労した点は、3 点ある。1 点目は、応募当初に記した SDGs カードを活用することである。2 点目は、生徒たちが SDGs について基礎的な知識を有していない中で、授業時間内に内容を折り込むことである。3 点目は、英語の授業で言語材料の不定詞を用いて、わたしの SDGs 宣言という形式で締め括ることである。
13. 改善点	・地域の人材活用 外国語指導助手による英語を介した多言語理解において、本年度は新型コロナウイルスが影響し、当該言語の知識を得た言語話者を活かす授業を実践できなかった。以後、在留外国人、外国人技能実習生、訪日外国人等、地域の人材活用に取り組む。 ・教科横断型授業実践、各種団体との連携 国立公園における SDGs 地方創生に資するビジネスを創出する官民連携分科会において、以下(1)保護・保全、(2)地域振興、(3)防災・教育の 3 つの観点から、SDGs17 目標達成を試みている。(1)では、地域の生態系を守るために外来生物を駆除し、豊かな自然を次の世代へ伝える取組である。(2)では、ジオツーリズムによって働きがいと経済効果を実現する。本校においては、シャトルバスネイチャーガイドボランティア活動を理科教員主導で実践している。(3)では、地元の山の火山活動について、現地を見て、触れて、体験し、ジオパークを通じて、大地と人の歴史を知り、防災を学ぶことができる。3 つの観点を活用して、次年度以降や他の学校で追試する場合に連携を図る。 ・現地校との交流 ・SDGs17 目標の視点から、地域理解の促進 昨年度から、SDGs17 目標を意識しながら授業立案に取り組んでいる。最終的には、SDGs の観点を踏まえた年間シラバスを考案する。そのためには、地域理解の促進が求められる。 ・フィールドワーク、課題報告作品 ジブンゴト化して提言を行うが、その提言を参考にして、どのように目標の改善へと具体的に行動していくのかがこの度実践できずにいた。また、マダガスカルが単元であるが、最後は大雪国立公園の森林に焦点を当てた方が、よりジブンゴト化ができたのではないかと回想している。
14. 成果が出た点	生徒たちが、日常生活の中で SDGs に触れた際に意識が向くようになった。 SDGsQuest みらい甲子園への参加も検討している。 今回補助ワークシートとして、掲示したものと同様の日英両面印刷を配布した。英語

が得意な生徒からは、日本語文が書かれていることに不評であった。一方で、ワークシートの注釈では、苦手意識のある生徒たちに対して太字にするなど改良の余地がある。又、英語の活用においても、現在英語での記述を試みたが、一度日本語で記述を試みさせ、英語は電子辞書やスマートフォンを用い、言語材料の使用に焦点を置いた。

コロナ禍で、当初予定していたグループで1つのワークシートを作成する計画を、個々での課題に変更をした。結果として、個別・集団学習のいずれにも対応できる成果を出せた。

15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

JICA 国際協力出前講座では、私たちにできることは、まずは「知ること」であり、そして体験し、伝え、行動することが大切だと紹介して下さりました。そのときから、生徒たちの意識に変容が見られた。生徒からは「青年海外協力隊について知ることができた。話を聞いて、自分たちも異文化を理解するためにさらに関心を持ちたいと思った。」と感想が寄せられた。



Lesson 5: Baobabs in Madagascar

TASK 1: Listen to each other and take notes to share information with groups A, B and C.

A	B	C
Contents	Contents	Contents
poor farmers and no	農業従事者が少く、 長年（？）の間に JICA の支援を受け、 技術向上。	農村技術の発展、 JICA が社会福祉を 受けること、 技術向上。
Goals contribute to SDGs Cards	Goals contribute to SDGs Cards	Goals contribute to SDGs Cards

WORKSHEET

TASK 2: Thinking about the points on Task 1, answer the following questions.

(1) Compare A, B and C's contents? What did you notice? What were the common points?

A, B and C's contents

技術向上の共通点 (未来を築くための技術)

(2) Now compare A, B and C's goals contribute to SDGs Cards. What did you notice? What were the common points?

A, B and C's goals contribute to SDGs Cards.

貧困削減、食料安全保障、持続可能な消費、技術向上、農村技術の発展、JICA が社会福祉を受けること、技術向上。

(3) What can we do to improve the problems in Madagascar?

私たちがこの技術向上の問題を、食料安全保障、農村技術の発展、JICA が社会福祉を受けること、技術向上。

It is important for us to support for technical improvement,
improvement of water problems and making food with less waste
in Japan to improve the problems in Madagascar.

Goals contribute to SDGs Cards

Grade 2 Class A No. () Name (小島 陽太)

Lesson 5: Baobabs in Madagascar

TASK 1: Listen to each other and take notes to share information with groups A, B and C.

A	B	C
Contents	Contents	Contents
農家が貧しい	5歳未満の子供が 栄養不足	誰かが貧乏で苦しんで 食料不足で苦しんでいる。
教育向上の努力 ↓ 指導	栄養不足、健康 ↓ 食料を通じて 栄養改善	(口實に) 農村 技術向上 ↓ 農村技術 農村生活や教育が 改善されている IC Net (株)
Goals contribute to SDGs Cards	Goals contribute to SDGs Cards	Goals contribute to SDGs Cards

WORKSHEET

TASK 2: Thinking about the points on Task 1, answer the following questions.

(1) Compare A, B and C's contents? What did you notice? What were the common points?

A, B and C's contents

世界には貧困や飢餓で苦しんでいる人が大勢いる。
There are many people in the world suffering from poverty and hunger.

(2) Now compare A, B and C's goals contribute to SDGs Cards. What did you notice? What were the common points?

A, B and C's goals contribute to SDGs Cards.

貧困をなくそう、飢餓をゼロに
Let's get rid of poverty. Hunger to 0.

(3) What can we do to improve the problems in Madagascar?

私たちがこの食料不足の問題を改善するために食べ物や食料を
提供して食べることに大切である。
It is important for us to eat food without likes or
dislikes in order to improve the problem in Madagascar.

Goals contribute to SDGs Cards

Grade 2 Class A No. (31) Name (山口 彩楓)



	
16. 授業者による自由記述	今回の授業実践を受けて、日本で当たり前の事が、現地ではそうではなく、ひとつの分野の問題解決にも、教育、経済、インフラ整備など広い視野を持つことが大切だと、生徒たちと共に感じる事ができた。また、こちらが必要と思う事ではなく、地域(大雪国立公園を含む上川町、旭川市)のニーズに即した行動をしなければいけないこと、そのためには地域の特性を理解することが大事であることを学ぶことができた。

参考資料：

- ・授業で使える SDGsカード JICA 地球ひろば
- ・共につくる私たちの未来 SDGS から「持続可能な社会の創り手」への一步を JICA 地球ひろば
- ・mundi 2018 March No.54
- ・mundi 2020 January No.76
- ・mundi 2020 August No.83

SDGsを題材とした関連書籍

- ー 一般社団法人 Think the Earth(編), 2019, 『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』, 紀伊國屋書店
- ー NPO 法人 ETIC. (編), 2019, 『未来の授業 私たちの SDGs 探求 BOOK』, 宣伝会議
- ー 関口聡, 2019, 『1 時間でよくわかる SDGs と協同組合』, 一般社団法人 家の光協会
- ー 佐藤真久・広石拓司, 2018, 『ソーシャル・プロジェクトを成功に導く 12 ステップ コレクティブな協働なら解決できる! SDGs 時代の複雑な社会問題』, みくに出版
- ー 田中治彦・奈須正裕・藤原孝章, 2019, 『SDGs カリキュラム-ESD から広がる持続可能な未来』, 株式会社学文社
- ー 日本ユニセフ協会, 2018, 『知っていますか? SDGs ユニセフとめざす 2030 年のゴール』, さ・え・ら書房
- ー 保本正芳・中西将之・池田靖章, 2016, 『自分ごとからはじめよう SDGs 探求ワークブック～旅して学ぶ、サステイナブルな考え方～』, noa 出版
- ・ウェブサイト

動画① <https://www.youtube.com/watch?v=QyDqENGL6g0>

動画② <https://m.youtube.com/watch?v=yEQJzdrYlcM>

WORKSHEET

Lesson 5: Baobabs in Madagascar

TASK 1: Listen to each other and take notes to share information with groups A, B and C.

A	B	C
Contents	Contents	Contents
Goals contribute to SDGs Cards	Goals contribute to SDGs Cards	Goals contribute to SDGs Cards
                 	                 	                 

TASK 2: Thinking about the points on Task 1, answer the following questions.

(1) Compare A, B and C's contents? What did you notice? What were the common points?

A, B and C's contents

(2) Now compare A, B and C's goals contribute to SDGs Cards. What did you notice? What were the common points?

A, B and C's goals contribute to SDGs Cards.

(3) What can we do to improve the problems in Madagascar?

Goals contribute to SDGs Cards

Grade 2 Class A No. () Name ()

Lesson 5: Baobabs in Madagascar

SHEET A: Contribution to SDGs by making use of Chocolate

There are poor farmers anxious about the worries their lives in Madagascar.

→Meiji is one of the leading companies making chocolate products in Japan, has been supporting poor farmers in order to improve their cultivation techniques, fermentation techniques, and aid of materials so that famers can concentrate on their work and produce quality cacao.

Gloss (注釈):

anxious about～ (～について心配している) / worry (心配) /

leading (代表する) / product (商品) / in order to～(～するために)

improve (を向上させる) / cultivation (栽培) / instruction (指導) /

fermentation (発酵) / aid (補助) /

quality (良質な) / cacao (カカオ)

Lesson 5: Baobabs in Madagascar

| | |---| | SHEET B: Share and spread the importance of foods | |---|

The percentage of growth inhibition in children under 5 years old (mainly short stature due to chronic malnutrition) accounts for 49.2 percent of effects of malnutrition, the fifth highest in the world.

→ JICA improves nutrition through school lunches by creating a framework for local people, schools and government.

Gloss(注釈):

spread (広める) / growth inhibition (発育障害) / short stature (低身長) /
due to～ (～が原因で) / chronic malnutrition (慢性栄養不良) /
account for～ (～を占める) /

Lesson 5: Baobabs in Madagascar

SHEET C:

Protect forests and the lives of people through training
that everyone can participate in

With a rising population, the increase in tree cutting activities (deforestation) threatens and makes the lives of people and factory activities disordered.

→IC Net Limited does projects to protect forests and the lives of people through training everyone can participate in, passing techniques on to the local people.

Gloss(注釈):

deforestation (森林伐採) / threaten (を脅かす) /

make O C (O を C させる) / factory activity (生産活動) /

IC Net Limited (アイ・シー・ネット株式会社)

do a project (プロジェクトを行う) / disorder (無秩序にする) /

Lesson 5: Baobabs in Madagascar

SHEET A: チョコレートで SDGs に貢献

貧しい農家が多く、生活の不安を抱えている。

→仕事に集中し、良質なカカオを作ってもらうために、日本を代表するチョコレートメーカーである明治は、栽培技術の向上と発酵技術の指導、資材の補助などと同時に生活のサポートをしている。

Gloss (注釈):

anxious about～ (～について心配している) / worry (心配) /

leading (代表する) / product (商品) / in order to～(～するために)

improve (を向上させる) / cultivation (栽培) / instruction (指導) /

fermentation (発酵) / aid (補助) /

quality (良質な) / cacao (カカオ)

Lesson 5: Baobabs in Madagascar

SHEET B: 食の大切さを共有し、広める

5 歳未満児の発育阻害(おもに慢性栄養不良による低身長)の比率が 49.2 パーセントと世界で 5 番目に高い。

→JICA が、地域住民と学校、行政の 3 者が協力する枠組みを作り、給食を通じた栄養改善を行っている。

Gloss(注釈):

spread (広める) / growth inhibition (発育障害) / short stature (低身長) /

due to～ (～が原因で) / chronic malnutrition (慢性栄養不良) /

account for～ (～を占める) /

Lesson 5: Baobabs in Madagascar

SHEET C: 誰もが参加できる研修で森林と人々の生活を守る。

人口増加に伴って無秩序な森林伐採が進み、土壌が劣化し、人々の生活や生産活動を脅かしている。

→アイ・シー・ネット株式会社は、“誰もが参加できる研修”を通じて住民に技術を伝え、森林と人々の生活を守るプロジェクトを行っている。

Gloss(注釈):

deforestation (森林伐採) / threaten (を脅かす) /

make O C (O を C させる) / factory activity (生産活動) /

IC Net Limited (アイ・シー・ネット株式会社)

do a project (プロジェクトを行う) / disorder (無秩序にする) /